

## (色板を使った形づくりの導入はスモールステップで)

>>> 福井 LS 水仙 竹村計美

### 概要

「形づくり」では、形の認識力の差が大きく、簡単に分かる子もいれば、なかなか理解ができない子もいる。いきなりこの単元で「色板を並べてこの形を作ってみよう」と言ってもどうしてもいかならない子もいる。例えば 一つをとっても、少し方向が違っているだけで、どうなっているのか分からなくなってしまう。

そこで、まず、 の色板 1 枚だけから始め、色々な方向に回してみることで、 をどう回せば、どのように見えるのかを理解させる。次に、 2 枚で □ を作らせることをいろいろなってみる中で、 □ を作ることに慣れさせる。

その後、教科書の形を見せ、 □ を見つけたら を見つけたらすることで、形をどう作ればよいかを自然に理解させることができると考えた。

これは、次時の が何枚でできているかを見付けさせることにも、有効であった。薄い方眼紙の隠れている線を伸ばして □ を見つけ、 □ は更に 2 つに分けて にすることで、本時の授業と結びつき、考えやすかったようだ。

また、電子掛け図デンカケを使うことで、自分で準備せずとも、児童と同じ絵を提示することができ、便利であった。今回、特に、P. 68 については、色板が何枚でできているかが、1 クリックで現れるので、分かりやすかった。(教科書：啓林館)

### 指導の流れ

(教授用色板 1 枚を提示する。)

■ 発問 1 : の色板を 1 枚だけ出します。先生と同じように机の上に置きなさい。

向きを変えて、色々と置き換えてみる。

■ 発問 2 : の色板を 2 枚にしましょう。先生と同じように並べなさい。

□ を作り、向きを変えて置き換える。

啓林館「わくわく算数」デンカケ 2 の P 67 を提示する。

■ 発問 3 : 自動車をつくります。 の色板が何枚でできていますか。 <br> 数えて、教科書に書いてみましょう。

書いた数を挙手させた後、デンカケの絵をみんなで数える。

■ 発問 4 : 15 枚の色板で、自動車をつくるんだね。まず、 2 枚でできている □ はどこにありますか。

デンカケの絵で示させる。

■発問5：□が6つあります。まず、この□をつくってみましょう。

机の上に□の部分だけを作らせる。

教師用色板で黒板に貼ってみせる。

■発問6：□になっていない はどこにありますか。

デンカケで示させ、その部分を付け加えさせる。

同様に、ヨットや飛行機も作らせる。

### 準備物

（教師）啓林館「わくわく算数2上」デンカケ 教師用直角三角形色板

（児童）三角形色板16枚（足りない場合は、友達と協力して作らせる。）

### コメント